



キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2013年5月 Vol. 3

Kinky Shot! -今月のキンシャサ-



堂々の存在感を放つ、貴重な広報グッズ
ご協力頂いたフランス事務所の皆様、
ありがとうございます！

タイトル: 念願の二国間ピンバッジ

キンシャサの路上では、よくピンバッジを売っている。コンゴ人はピンバッジ大好き。背広を着る勝負日は、襟元に何かキラリ☆コンゴ民の国旗はもちろん、赤リボン(エイズ対策)、ピンクリボン(乳癌対策)、仏語圏サミット、コンゴ民と米、英、中、韓の二国間国旗まで。

うかうかしている場合じゃない!! というわけで作ってみましたピンバッジ(非売品)。日本人の皆様はこれを安全確保の一環として、コンゴ人同僚には日本のフシゼンス向上のため活用頂ければ嬉しいです。数に限りはありますが、ご購入の方は是非ご連絡ください!

♪ キンシャサの音楽事情 ♪

Kin Life! -キンシャサで生きる-

「ベンダ・ビリ川~もう一つのキンシャサの奇跡」

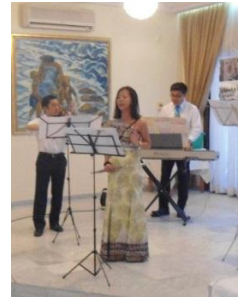
「キンシャサ・シンフォニー」

いずれもキンシャサの音楽に関するドキュメンタリー(2010年公開)。ベンダ・ビリ川はキンシャサで路上生活を送っていた音楽集団とストリートチルドレンが世界デビューを果たすまでの「奇跡/軌跡」を追った映画。公開後、世界中で大ブームとなり来日公演も果たしている。キンシャサ・シンフォニーは厳しい生活の中でも音楽を生きる希望とし、紛争後の日々を逞しく、しなやかに生き抜く人々を描く。

こうした映画が物語るように、コンゴ人の音楽センスは抜群! 事務所関係者にも、絶対音感を持つヴォーカル、完璧な日本語で歌を歌える運転手(歌詞は耳から)など隠れた(?)才能がちらほら。負けてはいられないだろう、日本人! というわけで(か?) リーダー(ピアノ/コーラ)を中心に、才能あふれる(発掘中含む)日本人などが集結、公演する度に着実にファンを増やしてきた。先日、リーダーの離任に伴い、ファイナル・コンサートを開催。「ベンダ・ビリ川」にはあと一歩(?) 及ばなかったものの、音楽好きコンゴ人にはリーダー率いる音楽集団の演奏が、何よりのコミュニケーションと友好の証として受け取られた、と信じている。



ファイナル・コンサートの様子。聴衆の中には大臣や国際機関トップも…!



Eat Kin! -キンシャサで食べる-

キンシャサ唯一の寿司レストラン?



日本食といえば寿司。アフリカでもスシ。アボカド、パイナップル等、現地の食材を使ったスシは日本人には奇想天外だが、意外と美味しい。果たしてアフリカ2位の面積と人口を誇るコンゴ民でのスシ事情は如何に??

なんと、この1千万人の大都会キンシャサには、韓国料理屋はあっても、寿司が食べられるレストランはない…いや、正確には「なかった」。実は、某国人がスシのデリバリーを始めたとの情報(未確認)がある! 誰も一番には試したがらず実力の程は不明だが、すでに噂が噂を呼び期待(妄想)が膨らんでいる。なお、この国の東南端のルンバシには「肉屋」(というレストラン)にスシがあるが(前号参照)、道路がつかなくて1,600kmはあまりに遠い…

しかし、とある夜のキンシャサにはスシ職人が(写真左)! 300貫のスシが50名の多国籍関係者の胃の中に消えた。サーモン、タコ、イカ、キュウリ、アボカド、卵の他、白菜の浅漬、地元で人気のキャピテン(川魚)の蒲焼までがネタになった。コサコサ(エビのような地元のザリガニ)もきつとよいネタになるだろう。しかし、残念ながらこの職人は本職ではないし、この国にはもういない。

(前回の続き)大統領からの4車線化への変更要請、10か月の工事中断命令を乗り越え、再開された改修工事。先方政府負担となった4車線化への拡張工事も無償資金協力案件と同じコンサルタントと施工業者が請け負うこととなった。

これまで道路工事といえば「中国」であったコンゴ民において、質の高さで有名な「日本」の企業が行う工事に対する人々の関心は否が応でも高まった。そしてそんな期待は裏切られること無く、工事を請け負う北野建設は渋滞回避のために迂回路を設置し、散水車で水を撒き、常に警官が誘導するよう手配。更に質の高い丁寧なアスファルト舗装工事は、連日暇なコンゴ人が何十人と見学に訪れるほどの評判を生んだ。噂は遙か東の果てカタンガ州まで及び、約2,000キロ離れた同州から突然エンジニアが研修のために送られてきた。政府高官から一般市民まで「日本の工事ってすごいね。」と口にし、施工業者所長、そしてJICA所長ともマスコミから単独インタビューを受けるほどの一大フィーバーを巻き起こした。

さらに追い風が吹く。2012年11月の大統領選挙を機に内閣が機能するようになり、なんとインフラ省で本工事の予算が最優先で割り当てられるようになったのである。時は来た。熱い感慨を胸に、遂に米崎の離任の時が迫る。完成道路を見めまま去ることになったが、離任時の空港への経路はもろんポワ・ルー通りであった。(次回へ続く)



日本では当然の迂回路も賞賛の対象に!



工事再開!日本の緻密な工事にインフラ大臣も興味深々。

事務所長離任にあたってのご挨拶

コン月のイベント



過去の海外駐在では得られない刺激を期待して、2009年7月20日にキンシャサに降り立ちました。予想通り、当地では予想もつかない様々なトラブルが発生し、対応に追われる日々でしたが、幸いすべての事業が実施に至り、また関係者に大きな事故もなく任期を終えることができました。

コンゴを一言で語るのには難しいですが、敢えて表現すれば「豊富な天然資源ゆえに紛争の絶えない大国。しかし、希望はある。」というのが適当かと思えます。日本の6倍の面積を有し、多種多様な文化と歴史、貧困、東部紛争、大量の難民、と膨大なこの国の課題とスケールを前に、常に畏敬の念を禁じえません。これらの問題の早期解決は困難でしょう。しかし、人的資源には大いに希望があります。マタティ橋、給水無償、職業訓練技術協力など、過去実施した案件で育成された人材は、組織の円滑な運営や、供与された機材の適正なメンテナンスを怠らず、高齢となっても綿々と専門家の教えを守り続け、今日ではJICAとともに若い人材の育成に取り組んでいます。また、警察研修、保健人材育成の協力でも、この国の治安と健康を支える人材が育ちつつあります。コンゴ人はとても優秀です。私はこの愛すべき国の未来を信じています。

コンゴに関わられたすべての皆様に親愛を込めて。

二代目JICA事務所長 米崎 英朗
(平成25年4月18日離任)

愛すべき?コンゴ人



所属: JICAコンゴ民事務所
氏名: オリビエ・ティエン

現地職員のリーダー。職業訓練、環境、コンゴ共(兼轄)担当。コンゴ生まれながら長年を南アで過ごし、同国でJICAキャリア開始。警察研修や緊急開発調査、コミュニティ開発等のコンゴ民支援に携わる。

その後、コンゴ民事務所の立ち上げのために帰還。我が事務所では珍しい英・仏バイリンガル! 将来の野望は政治家とのこと?

編集後記

今月は、2007年の事務所開設よりもずっと以前から当国への協力に携わり、事務所の歴史そのものといえる米崎の離任に伴い、事務所をテーマとさせて頂きました。約4年の任期中、時には神経をすり減らしながらも、この国を愛してやまない米崎さん。約4年間、本当にお疲れ様でした!

さて、次号は新所長とともにまたしてもキンシャサを飛び出し、かの有名な(?)マタティ橋(今年なんと30周年!)を抱えるバ・コンゴ特集をお届けします。大好評ポワ・ルー連載はいよいよ最終話。お見逃し無く!